

研究タイトル：

ソフトウェア品質向上のための開発文書品質



氏名： 藤田 悠 / FUJITA Yutaka E-mail: fujita@nagano-nct.ac.jp

職名： 助教 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 電子情報通信学会, IEEE, 日本教育工学会

キーワード： ソフトウェアドキュメンテーション, ソフトウェア開発, 文書品質, テクニカルライティング

- 技術相談
提供可能技術：
- ・ソフトウェア開発文書の品質測定方法の検討
 - ・ソフトウェア品質向上のための日本語文書教育
 - ・コミュニケーションのための文書教育

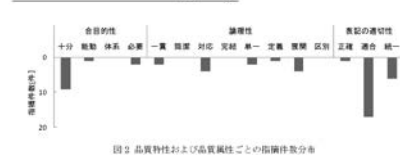
研究内容： ソフトウェア品質向上のための文書診断法

【概要】

ソフトウェアを開発する各工程では、開発の成果を文書にあらわし、次の工程につなげる。そのため、各工程で作成する文書の品質は、最終的な成果物であるソフトウェアの品質に影響を及ぼす。各工程での成果物である文書の品質を効率よく高めるために、現状の文書品質に基づく対策が考えられる。文書の内容に踏み込んで品質を評価し、品質を向上させるためには、人手によって品質を評価し、その結果を的確にあらわすことが求められる。そこで、品質を評価する方法に規則を与えて、プロジェクトや場面に応じた評価指標を構築し、その指標に応じた品質を提示する。

【適用例】

診断した結果として提示する文書診断書の例を左図に示す。診断した文書に対する指摘を「合目的性」「論理性」「表記の適切性」に分類して、文書品質の傾向を把握することができる。この結果から、品質を高めるための方法を考えることや、品質が向上する様子を把握することができる。具体例として、品質特性別の傾向に合わせた文書作成教育内容の検討や、実際の文書に基づく文書教育教材の作成、実開発文書を用いた、文書作成ガイドラインの構築などが考えられる。



【従来技術との優位性】

自然言語処理技術を用いて文書の品質を測る方法があるが、語句や係り受けなど、一部に限られる。他方、内容に踏み込んで品質を評価するには、人手による方法が欠かせない。しかし、診断者によるばらつきや、診断表現の揺れが発生する。このような、人手による評価における問題を解決するために、人手による診断の表現に一定の規則を課すことで、品質の分析結果をそろえてあらわすことができると考えられる。

人手による品質の評価方法に一定の規範を与えることで、ばらつきや揺れを少なくできるほか、規範をつくることで、診断者が抽出すべきである文書に対する指摘が明らかになるので、診断者の育成につなげることができる。

【予想される応用分野】

ソフトウェア開発のみならず、テクニカルライティングが求められる企画書や報告書などのビジネス文書作成においても本技術を活用することができる。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	